

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
項目番号61 ○日常的な外出支援  
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
項目番号63 ○電話や手紙の支援  
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 \_\_\_\_\_ ホームズくにみの郷 \_\_\_\_\_

(ユニット名) \_\_\_\_\_ なごみ \_\_\_\_\_

記入者(管理者)  
氏名 \_\_\_\_\_ 大井 利巳 \_\_\_\_\_

評価完了日 \_\_\_\_\_ 平成19年 11月 27日 \_\_\_\_\_

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者が朝礼等を通して、職員へ伝える機会をつくっている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を通して日々、確認し、共に意識しながら実践できるよう心掛けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や管理者が地域の人々と関わりの中で理解や協力を行っている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩等で近隣の方が立ち寄り、花を眺めたり、友人を訪ねてくるようなことが、みられるようになってきている。積極的な働き掛けは、まだまだ少ないが、近隣の方々に興味を持って頂いている。	○ 住宅地に囲まれた立地条件を生かし、もっと近隣の方々が気軽に立ち寄れる働き掛け、環境作りを検討していきたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現状では地域活動には参加していないが、運営推進会議を発足し、事業所の近況報告や、助言等をもっている。	○ 地域活動への参加は、まだまだ取り組み薄く、運営推進会議を通じた意見交換となっている為、交流について検討を行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	開所後まもないため、地域との関わりが少ない現状にある。	○	利用者への支援の基盤が安定することで、地域支援への働き掛けを行えるようにしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価となるため管理者の指導のもとで会議等を通して話し合い、各職員が自己評価を行う機会をつくっている。	○	今回の自己評価を通して、各職員が改善を行う際、その意味を理解し、質の向上に繋がるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常活動等についての報告を行い、会議メンバーからの意見や内容は記録し、不参加者へ報告している。意見等については、職員間で情報を共有できるよう心掛けている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的に実情を伝える機会をつくり、質の向上に取り組めるように連携している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等に参加したが、報告書止まりになっており、全体的に周知はされていない。	○	研修の知識を活かし、研修報告等を実施しながら、必要に応じて活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレット、ポスター、回覧文書等を通じて、理解を求めている。	○	定期的な、内部研修等を通して、現状のケアを見直すと共に、虐待の理解を呼びかけ、事故防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	必要	必要な際には、十分な時間をとり利用者、家族等へ契約についての説明を行うよう心掛けている。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	必要	運営推進会議を通し、利用者側より外部へ意見や思いを表せるような機会をつくっている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	家族が知りたい点を十分考慮した報告ができるように広報誌等を含めた活用を検討していきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	必要	意見箱を設置、書面にて投稿できるようにプライバシーに配慮している。その内容が事業所内や運営推進会議で話合えるように機会をつくっている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	必要	毎月実施するユニット会議や朝礼等を通じて、職員側の意見や要望を含めたコミュニケーションを図る機会を設けている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	必要	利用者の状況変化に合わせ職員の勤務調整を行い、管理者と職員が話し合い、調整を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職希望者が離職する前には、利用者様の生活に支障を来さない為、次期職員の確保に努めている。退職する際は、利用者様が混乱しないよう、退職することに対し、理解を求めている。	○	現状での職員異動はないが、今後を踏まえ、関係者やケアの継続の為に取組みを検討していきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修等の参加を含め、情報を収集し、外部での研修を受ける機会を作っている。	○	研修会参加後の事業所内での学びの機会を計画的に実施できるようにしていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネージャーとの関係作りに努めている。サービス開始からまだ日も浅いことから、互いの情報交換を通じた関係作りが中心である。	○	他の同事業所との交流や連携を図れるように取組みを行っていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務から離れ、ゆったりとした休憩できる場所が確保されている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	平日を中心に、役員の訪問を定例化しており、棟の状況や実態等の把握に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が得意とすることを職員と行いながら喜びを共有したり、お互いの悩みを共有する等、学び、互いに支え合う姿勢、思いを知る姿勢を大切にし、支えあう関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や状況等の変化について家族と共に悩み、喜びながら信頼関係を築き、一緒に本人を支えられるように心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来訪時には、ゆったりとした時間が過ごせるように雰囲気作りを心掛けている。	○	本人、家族を含めた行事等を実施していきながら、お互いの関係を深めるきっかけを作っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に来訪して頂いたり、馴染みの場所へ外出する機会を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者1人ひとりの思いを知り、お互いが安心してコミュニケーションが図れる場面（お茶の時間、少人数での家事や手作業等）を作り、利用者間の関係理解に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了となる場合の外部機関との情報共有を密にし、契約終了後も相談等を受け入れることを大切にしている。利用者の心身面考慮し、同事業所との連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、「聴く」ということを大切に、利用者の視点に立ち支援を行っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活について利用者とのコミュニケーションから得られる情報や家族からの情報を大切に、ホーム内の生活に繋がるように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間での申し送り等を密に行い、その人に合った1日の過ごし方を把握し、心身状態に合った生活に繋がるように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を大切に、スタッフ間でのケアの検討を図り、介護計画作成を行っている。	○ 家族や関係者を含めた課題分析を十分に行い、地域でその人らしく暮らせるように検討、実践していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた介護計画の見直しができるよう心掛けている。	○ 状況や状態に応じた臨機応変な介護計画が見直せるようにしていきたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基本とし、個別記録にてケアの状況を確認すると共に気づきを記し、共有できるようにしている。	○	介護計画の見直し等に生かせるような記録等の活用を心掛けていきたい
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	細やかな部分では交流がない状態。	○	運営推進会議等にて地域への理解と協力を図り、地域資源との協働、活用をしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退居が決まった時点で、ご家族様及び、ケアマネジャーとの連携を図り、退居後の本人様の望む生活を考慮した上で、他のサービス利用の段取り等を支援している。	○	今後も地域のケアマネジャーや他事業者との連携を図る機会を作り、利用者の意向等について話し合いが蜜に出来るようにしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居時は連携を図りながら行っているが、入居後は疎遠になりがちである。必要に応じては連絡を取り合うなどし、助言等をいただいている。	○	必要時に応じて、地域包括支援センターと連携を図ると共に運営推進会議にて情報の共有を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を基本とし、医療を受けられるよう支援している。また、緊急時等の協力医療機関利用について、事前の説明、同意を得ている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人が希望する（もしくはご家族）かかりつけ医への依頼が中心となっている、専門医等の受診支援はおこなっていない現状である。	○	協力医療機関に対して働きかけをしていく必要がある。また、地域の専門医との関係作りに努め、家族等を含めた相談が行っていきけるようにしていきたい。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、本人の生活状況等を病院側に伝え、情報の交換を行っている。退院後のホーム内のケアについても病院、家族を含め、情報の共有、相談を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を通して、早期の重度化に向けた取り組みについては、現状で少しずつ話し合いを進めている段階である。	○	今後、重度化や終末期について、本人や家族を意向を確認、整理し、具体的な対応方針へと繋がるようにしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の重度化、終末期に向けスタッフ間で話し合いの機会を設けている。本人や家族、医療関係者を含めたチームでの支援への取組みに繋がる体制を作っていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居時に家族や関係する機関との情報の共有、連携を図り、精神的なダメージが軽減できるように働き掛けをおこなっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する管理の徹底と利用者の1人ひとりの権利を尊重し、日々の支援をおこなっている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者それぞれのペースに合わせ、利用者一人ひとりの自己決定を尊重し、暮らせるように心掛けて支援をしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者との相談の中で希望する事を優先し、利用者側にたち暮らせるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	日々の中で化粧等、おしゃれを意識できるよう支援し、外出や他者と触れ合いながら楽しみを見出せるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している (認知症対応型共同生活介護)	買い物等を通して、お金を使うことへの働き掛け、利用者の希望に合わせお金が所持、管理できるように支援をおこなっている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望に沿い、戸外や近隣への散歩、ショッピングセンターへの買い物に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している (認知症対応型共同生活介護)	利用者と相談、企画し、車両を使用し地域へ外出している。利用者1人ひとりに合った外出支援を心掛けている。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている (認知症対応型共同生活介護)	ホーム内にある電話を自由に使用できるように支援している。利用者の状態に合わせて家族等の協力を得、電話等のやり取りを行うようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している (認知症対応型共同生活介護)	来訪者がゆっくり会話を楽しめるよう、雰囲気作り、スタッフの対応等、心掛けている。	○	来訪者のスペースなどを検討していきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。ポスター、書類等を通して、全職員に対し、身体拘束についての認識をもてるよう努めている。	○	今後、外部の研修会を通し、内部研修等を通じた職員間で正しく理解できるようにしていきたい。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	状態に合わせて、スタッフ全体で再確認、改善が図れるようにしていきたい。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	AED使用や緊急時の対応について、外部にて指導受けるが、今後は、定期的な訓練、より実践的な訓練が行えるようにしていきたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	大規模な訓練は、まだ実施していない為、利用者の個々に合わせた避難対策を十分に考慮し、訓練を行って行きたい。また、地域の人々と協力して行える取り組みを検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	<p>一部の方だけではなく、リスクを予防した話し合いができるように話し合いを作っていきたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	<p>利用者1人ひとりに合わせた口腔ケアを心掛けているが、介助が必要な方への対応重視になっている。利用者の自立した意識の維持を図りつつ、利用者1人ひとりの状態に合う支援を心掛けたい。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルは作成しておらず。C型肝炎者について、洗濯物の選別、入浴後の清掃を実施している。インフルエンザの予防接種についても、強制ではないが、利用者様、職員共に出来るだけ実施するよう働きかけている。	○	委員会を設け衛生面の予防を図っているが、より密な感染症についての知識を職員間で身につけるようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具など使用後に除菌を行い、調理場の衛生を心掛けている。食材については、業者と新鮮なものが提供できるように連絡を密にしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭を利用し、四季折々のお花を咲かせるように工夫し、癒しの空間になっている。しかし、出入り口には看板がない為、どっちが「なごみ棟」で「松稔棟」なのか迷う来客者もいる。玄関も殺風景である。	○	看板等を設置し、来訪する方が、迷わずに出入りできるような工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花等を取り入れ、五感を生かせるようにしたり、昼夜含め音や光に対し十分に注意し、支援している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人が、居室を利用しながらプライベートの時間を大切にしてもらってる。居室の他に、小さなスペースがあり、他者の目に触れず、人に聞かれない事話せる場所でもある。しかし、実際は慣れない為か、利用する事は減多にない。	○	和室や室内のベンチを活用し過ごすことあるが、共有空間でも1人になれるような空間作りをしていきたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時は、自宅より馴染みの物や使い慣れてた物 も持ち込み可能であることを説明し、持参して もらっている。	○	本人や家族と相談しながら馴染みある物を持参し てもらっているが、今後も利用者が居心地よく過 ごせるような工夫を相談し、実施していきたい。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	室内の換気に注意を図ると共に、浴室やトイレの 大きな温度差が生じないように利用者の体調に合 わせた温度調整を心掛け支援を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物が平屋であり、大きな段差もなく、自立した 生活が送れるようになっている。浴槽も手すり がある為、介助なしでも入浴可能な方もいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱をしないように、紛らわしい物は近くに置か ず、会話もゆっくり、はっきり、短い言葉で話す よう心がけている。	○	一人ひとりに対しての環境づくりでは、まだまだ 不十分な点が多く、利用者、家族を含め、その人 がわかる力を引き出せるような工夫をおこなっ ていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭に花や野菜を植え、手入れや触れ合う機会を 図り、楽しんで活動できるように心掛けている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	⑤その他 ( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	⑤その他 ( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	⑤その他 ( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	⑤その他 ( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない <input type="radio"/> ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない <input type="radio"/> ⑤その他 ( )

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

人と人が向き合い、行動や発言を待ち、その人らしさを大切に、ゆっくりとした生活を目指す支援を日々心掛けています。

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
項目番号61 ○日常的な外出支援  
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
項目番号63 ○電話や手紙の支援  
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 \_\_\_\_\_ ホームズ くにみの郷 \_\_\_\_\_

(ユニット名) \_\_\_\_\_ 松穂(まつぼっくり) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)  
氏名 \_\_\_\_\_ 大井 利巳 \_\_\_\_\_

評価完了日 \_\_\_\_\_ 平成19年 11月 27日 \_\_\_\_\_

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より理念を掲げており、来客者にも見える場所（玄関）に掲示してある。	○	理念については、よりわかりやすい内容にして、具体的なケアにつながるよう改善する。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はあるものの、それに向けた取り組みは薄い。	○	一人一人が理念を意識したケアに努められるよう、打ち合わせ等で伝授し、理念に沿ったケアをしていく。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時、御家族様に対して事業所の理念を伝え、事業所としての方向性を理解してもらっている。	○	地域との交流が薄く、一部の地域の方々にも事業所の存在が理解してもらえていない為、時間をかけながら交流を深め、GHの理解を求めつつ、地域の住民仲間として快く迎えてもらえるよう、取り組んでいく。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩等を通して、近隣の住民の方々との繋がりを大切にし、顔馴染みの関係を形成している段階である。実際、散歩で知り合った方がペットを連れて、気軽に会ってくれている。	○	住宅地に面していることから、ご近所の方が気軽に行き来出来るような働きかけを検討していく。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	まだ、事業所も出来たばかりということもあり、たくさんの地域活動には参加していないが、運営推進会議を発足し、事業所の近況報告や、助言等をもたらしている。	○	行事等の情報収集をし、参加しやすい活動から少しずつ参加してしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	GHがどのような役割を果たせるのか検討中である。	○	事業所をもっとPRしながら存在を知ってもらい、近い将来地域貢献が出来るよう、地域にも目を向け話し合っていく。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員へ理解してもらい、GHの役割、やるべきこと等を確認してもらっている。一人一人がそれに気づけることを目的としている。	○	自己評価、外部評価の評価について、全員で確認し合い、向上心を持ってケアに努める。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	まだ一度しか実施していない。(顔馴染みの関係が出来たばかりである)事業所の実践報告や意見等を交換し合っている。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	顔馴染みの関係である。時折、情報等を共有し合っている。	○	今後、様々な事業所との関わりを大切にし、助言等をいただきながら、質の向上に努めていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修で学んだ事を内部研修として実施している。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	パンフレット、ポスター、回覧文書等を通じて、理解を求めている。	○	内部研修を実施したり、外部の研修に参加するなどして、今のケアを見直すと共に、虐待の理解を呼びかけ、事故防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職希望者が離職する前には、利用者様の生活に支障を来さないよう、代替職員を確保している。退職に際しては、利用者様が混乱しないような説明をして理解を求めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ、専門職の資格取得を勧め、その為の情報等を提供している。又、研修等についても、参加できる機会を設けている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネージャーとの関係作りに努めている。サービス開始からまだ日も浅いことから、互いの情報交換程度で、深い関係作りや、改まった活動等はこれからである。	○	互いに刺激し合えるよう、ネットワーク形成を働きかけていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事の状況に応じ、少しの時間でも、心身共に休めるよう、現場から離れた事務室で休憩がとっている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者、外部からの情報を得て把握している。実績の評価を賞与などに反映するほか、資格取得や外部の研修に参加する機会も設けている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	身体介護だけではなく、常に寄り添い、耳を傾けるという介護を中心としたケアに取り組んでいる。又、得意な事柄を理解し、それを活かせる場を提供している。自信を導き出している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡を通じ、ご家族様の要望や悩みを受け入れ、ケアに反映させている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠になりがちなご家族様に対し、電話連絡を通して近況報告をしている。外出、外泊、通院等は極力ご家族様に協力を得て、ご家族様との交流を図ってもらっている。	○	利用者様に対しても、遠慮なく自宅へ電話連絡が出来るような配慮をし、ご家族様との交流が途絶えないよう支援する。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで自宅で使用していた物を持参してもらい、継続して使用している。外部との交流についても、本人様の生活歴を知り、行きつけの場所を継続して利用している。他者との関係作りも同様で、友人、知人、親戚等も途絶えないよう、大切にお付き合いが出来るよう、支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂のテーブルの配置には十分に配慮している。楽しんで家事が出来るよう、テーブルに食材を広げ、協力しながら手伝ってくれる。共に食事を摂ったり、外出したりと、仲間関係が出来ている。会話によっては、職員は間に入らず、見守りをしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方が、隣のデイサービスへ通っており、利用日に行ったり来たりと職員、利用者様との交流を継続して図っている。また、電話連絡等にて関係作りを保っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人様の望む生活を聞き入れ、棟会議を通して検討し、対応策を模索、様々な働きかけを試み、その結果を職員同士で情報を共有している。	○ 書類に残し、ケアプランに反映させたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ケアマネージャーからの情報、本人様からの話にて把握してる。	○ 今後のケアに繋がる様、記録に残し、個人の情報を共有できるよう作成する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各個人の生活のリズム等を理解し、職員同士が利用者様の潜在能力を確かめ合い、情報交換している。それらを、ケア記録に記載し、棟会議の際再確認している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族様からの要望、依頼等を取り入れながら介護計画を作成している。現場の職員からも指摘、意見、助言を受け、作成に取り組んでいる。	○ ご家族様はもちろんのこと、居室担当職員より、ケアプラン作成前後の確認をしてもらい、計画作成者が自分の視点で自由に作成することなく、他職員の意見をもらいながら、作成に努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に応じた作成は出来ていない。	○ 介護保険の期限によらず、状況変化に応じ作成していきたい。その際は、ご家族様、職員と共に話し合いながら、新たな計画を作成していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケア記録の記入をし、又、各職員の視点や関わりを大切にし、それを反映させたケアプランの作成を意識している。	○	日々のケアの働きかけを題材にしながら、ケアプラン作成に努める。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	まだ事業所も出来たばかりであり、関係機関との関わりは薄い。	○	利用者様が安全かつ円滑な生活が送れるよう、様々な機関との連携を図り、必要に応じて協力を得ていく。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退居が決まった時点で、ご家族様及び、ケアマネジャーとの連携を図り、退居後の本人様の望む生活を考慮した上で、他のサービス利用の段取り等を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居時は連携を図りながら行っているが、入居後は疎遠になりがちである。必要に応じては連絡を取り合うなどし、助言等をいただいている。	○	その場限りではなく、普段から連絡を取り合いながら、協力を得ていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関はあるが、個人のこれまでのかかりつけ医を優先し、ホームズに入居してからも主治医とのお付き合いを大切にしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人様希望されている（もしくはご家族様）かかりつけ医にお任せしているので、専門医等の受診支援はしていない。	○	協力医療機関に対し、働きかけていく必要有。もし、ご家族様で認知症について悩まれている場合、事業所の方で、協力医療機関を通して治療が出来るよう支援したい。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、本人様の生活状況（サマリー）、退居される場合の条件等を病院側に伝え、退去にならぬよう、病院側に働きかけている。（ご家族様にも）退院後のケアについても病院、ご家族様を含め、申し送ってもらっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだそうした話し合いはされていない。	○	ご家族様の希望等を聞きながら、医療機関との連携を図り、終末期に向け少しずつマニュアルの作成に取り組んでいく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだそうした話し合いはされていない。	○	全職員で話し合う必要有。また、かかりつけ医がどこまで協力してくれるのか等、ご家族様も含め話し合う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人様の希望、要望を聞き入れ、ケアマネジャーやご家族様に伝え、安心した暮らしが出来るよう、協力を求めている。また、次なるサービスを利用する際は、事業所からの情報を提供し、混乱を防ぐよう支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は鍵付ロッカーへ保管しており、利用者等の情報が漏れないよう取り扱っている。記録についても、本人以外の名前はイニシャルで記載している。また、利用者様に対しての声掛けについても、話す内容によって言葉遣いを変え、トイレ誘導時も他者に聞こえぬよう、耳元で声掛けをしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフ一人一人が選択権のある声掛けをしようと会議で話し合い、働きかけしている。個々の好み、要望が把握出来るよう、一対一での対話を実施し、話しやすい環境を提供している。説明する際も、時計や新聞紙を利用し、日時を説明し、簡単、短い言葉で話をしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の大きな流れはあるが、その日によって、利用者様の言動に合わせた生活支援を行っている。利用者様の希望に応じ、入浴、外出を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	個人にあった身だしなみを支援している。(化粧、毛染め等)外出時は、より一層お洒落をしてもらい、気分を盛り上げている。散髪については、個人の希望の場所を聞き入れ、対応している。(出来るだけかかりつけのお店に行くようにしている)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	所持金の出し入れは管理者、主任が行っており、本人様が買い物希望にて、スタッフが主任へ要求し、自由にお金を使用している。所持金表を作成している。職員が帳簿をつけているため、本人様は残金の把握は出来ていない。	○	買い物後の精算も利用者様と共に行い、残金の把握をしてもらい、金銭感覚の支援に努める。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	職員の手不足により、希望通りの外出は難しいときもあるが、出来る限り、個人の希望を聞き入れ、外出する機会を設けている。近所にお店もあることより、外出しやすい環境である。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	地元の展示会、外食等を楽しんでいるが、回数は少ない。個別での墓参り、友人宅へ訪問へ行くことあり。	○	希望を聞きながら、外出を検討する。利用者様がどのような場所に興味があるのか理解する。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	電話をかけたいと希望あれば、使用できるようにしている。他者に内容が聞かれないよう、子機を使用し、居室で会話をしてもらっている。本人任せであり、時には、希望があれば代わり対応する。手紙でのやり取りはまだやっていない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	来訪者がゆっくり会話を楽しめるよう、他利用者様より離れた場所にて寛いでもらい、気兼ねなく過ごせる環境を提供している。		
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。ポスター、書類等を通して、全職員に対し、身体拘束についての認識を持ってもらっている。専門職からの助言等は受けておらず。		




項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>緊急時、冷静な対応が出来るように、定期的に勉強会を実施していく。救命救急も同様である。夜間帯の急変時に備え、職員同士で対応を共有したい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>近隣の方にも災害時の協力が得られるよう、日頃のコミュニケーションが必要と思われる。定期的な避難訓練の実施を検討していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人様の尊重を優先した対応を重視している。	○	一部の方だけではなく、全利用者様のご家族様と話し合いを持って行く。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	表情、言動の変化を見逃さず、看護師、管理者、主任に指示を仰ぎ、助言や指示に対応している。又、記録に残し、全職員に周知出来るようにしている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬の情報をファイルに綴り、自由に目を通せるようにしている。薬の配薬についても、個人名、日付等を記入し、薬を準備する人、渡す人とそれぞれ確認し合い、(チェックリスト有)ミスのないように内服している。日々の健康状態を記録に残し、通院時、主治医へ伝達している。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行っている。水分補給(いつもの水分補給意外にヤクルト、ヨーグルト等)、運動量を増やし便秘解消に努めている。トイレ誘導時、腹部マッサージを施行し、快便に繋がるよう対応している。その他、病院より処方された下剤にて、排便のコントロールをしている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛け、場合によっては介助をしながら実施している。	○	さらに有効な口腔ケアの徹底が目標だが、個々の利用者が無理なく継続できるように配慮したい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の栄養バランスは、業者の栄養士が管理し、調理はスタッフがやっている為、栄養バランスの良い食事作りを提供している。食事量についてはチェックを行っている。個人に合わせた食事量を摂取しており、水分補給も時間に関係問わず、補給出来る時に飲んでもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	C型肝炎者について、洗濯物の選別、入浴後の清掃を実施している。インフルエンザの予防接種は強制ではないが、利用者様、職員共に出来るだけ実施するよう働きかけている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生委員会を設置し、まな板、包丁、フキン等のハイター消毒の徹底を全職員へ周知し、毎日実施し衛生を保っている。食材は業者に発注し、1日分の食材を毎日(週末以外)配達してもらっている。全て使いきりである。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭を利用し、四季折々のお花を咲かせるように工夫し、癒しの空間になっている。しかし、出入り口には看板がない為、どっちが「なごみ棟」で「松稔棟」なのか迷う来客者もいる。玄関も殺風景である。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所によっては、異食により装飾できない空間もある。季節を意識して装飾している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人が、居室を利用しながらプライベートの時間を大切にしてもらってる。居室の他に、小さなスペースがあり、他者の目に触れず、人に聞かれない事話せる場所でもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時は、自宅より馴染みの物や使い慣れてた物も持ち込み可能であることを説明し、持参してもらっている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>常々、窓を開けるなどして、換気に努めている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>建物が平屋であり、大きな段差もなく、自立した生活を送れるようになってきている。浴槽も手すりがある為、介助なしでも入浴可能な方もいる。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱をしないように、紛らわしい物は近くに置かず、会話もゆっくり、はっきり、短い言葉で話すよう心がけている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭を活用し(草花、お茶、地域の踊り、神楽等)利用している。</p>	○	<p>季節に左右されず、活用できる場所は大いに活用し、利用者様と共に作り上げられるよう支援する。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が一丸となって、家事を手伝ってくれる。今まで手伝いを遠慮していた方も、影響を受け、意欲的に自ら出来る事を見つけ出し、手伝ってくれている。話好きな入居者様が多い為、寄り添い話を聞き入れる支援を行っている。